

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月28日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520728

研究課題名（和文） ロシア正教の教義確立とフィラレート

研究課題名（英文） Development of Theology in the Russian Orthodox Church and Filaret (Metropolitan of Moscow)

研究代表者

兎内 勇津流 (TONAI YUZURU)

北海道大学・スラブ研究センター・准教授

研究者番号：50271672

研究成果の概要（和文）：

フィラレート(ドロズドフ、モスクワ府主教 1782-1867)は、アレクサンドル一世期、正教会の教育改革に参画するが、ロシアの政治体制の改革を志向する「アルザマス」サークルと親しく、当時はかなりプロテスタント寄りの立場をとっていた。この時代、宗教教育省の設立(1817年)等を通じて推進された宗教行政改革のモデルはプロイセンにあったが、正教会からの反発が激しく、1824年に撤回されたと推察される。

研究成果の概要（英文）：

Filaret (Drozdov, Metropolitan of Moscow, 1782-1867), who participated reform of ecclesiastical education of Russian Orthodox Church in the reign of Alexander I and played important role in it, had close relation with Arzamas Circle, that aimed to political reform in Russia, and his view of Christianity was close to Protestant. In these years, a new religious policy was promoted, established Ministry of Religious Affairs and Education (1817). Its model was taken from Prussia, but probably aroused much opposition from the clergies of Orthodox Church, and the new system was abandoned in 1824.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：ロシア正教会、フィラレート(ドロズドフ)、アレクサンドル1世、宗教政策、宗教と国家

1. 研究開始当初の背景

帝政ロシアにおけるロシア正教史の研究は、その重要性にもかかわらず、ロシア史研究の中でも未開拓の部分が大いように思われる。しかし、ソ連解体後20年近くを経て、ロシア国内および欧米で、その周辺分野

も含めてさまざまな研究が進展し、帝国論との関わりもあって、注目が高まりつつある。

代表者は、アレクサンドル一世期に、省庁制の導入など、大幅な国家機構の改編がなされると同時代に、ロシア正教の宗教教育改革が推進され、そのモデルがドイツのプロテス

タント大学に求められるらしいことに注目していたが、それをどのように関連づけて理解すればよいかについて、見通しを持っていない。

フィラレート(ドロズドフ)は、体系的な神学の著作はないが、1806年にモスクワ神学校長に任じられた後、正教教育改革に参加し、1820年にモスクワ大主教(1826年からは府主教)に任じられた後、ほぼ半世紀にわたって聖職者として絶大な権威を保ったことから、当時のロシア正教会の方向性、とりわけカトリックやプロテスタントなどキリスト教諸宗派との関係、および国家と教会との関係構築に当たって、非常に大きな影響力を發揮した人物と考え、その研究を通じて、帝政期のロシア正教会のイデオロギーがどのように形成されたかを明らかにできないかと考えた。

2. 研究の目的

フィラレート(ドロズドフ)の著作、および彼の周辺にいた人物の動向、当時のロシア帝国およびロシア正教会の状況との関連を分析することで、ロシア正教会のキリスト教研究、および教義の確立する過程との関連、ひいては帝政ロシアの国家体制と正教会との関係性を明らかにする。

3. 研究の方法

フィラレート(ドロズドフ)の著作内容の検討に併せて、彼の伝記的事実、当時のロシア正教会を巡る状況等について文献調査を進めた。

特に興味深かったのは、ナポレオンのロシア戦役直前の1811年または1812年に、宗務院のオーベル・プロクロールだったA. ゴリツィンが、皇后エリザベータの下間に対して、ロシア正教会聖職者たちの回答を徴した中に含まれる、フィラレートの回答で、かなり明確にプロテスタント的な方向を示す文書であることが確認された。

フィラレートの周辺の研究としては、とりわけ、1909年にA. コトヴィッチが発表した19世紀前半の宗教検閲史研究、Iu. コンダコフの、アレクサンドル一世期ロシア正教会保守派研究、E. ヴィシュレンコワの、アレクサンドル一世期宗教政策研究が重要で、多くの示唆を受けた。

また、アレクサンドル一世期の文化的状況を理解する上では、A. ゴーリンやM. マイオフィス、A. マーチンの研究から教えられることが大きかった。

この他、20世紀のロシア正教神学の大家で、戦後のアメリカでのロシア史研究にも大きな影響を与えたG. フロロフスキー(1893-

1979)の自伝、評伝等をまとめた書物に接し、これまでのロシア正教史の書かれ方という、史学史的な問題について考えることができた。

なお、研究期間中の2011年に、ロシアにおいては、『偉人たちの生涯』の1冊としてフィラレートを扱う巻が出版された。早速入手して検討したところ、聖人フィラレートの生涯について一般読者向けに語る内容で、ロシアで普及するフィラレート像を知るのには好適だが、研究として独自の論点を提示するものではないように見受けられた。

また、近年、19世紀のフランスやドイツにおけるキリスト教と国家の関係、あるいは宗教政策に関する、新しい観点からの非常に興味深い研究が内外で進められ、出版されていることがわかった。たとえば、深井智朗『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム：ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』(2009年)、松島明男『礼拝の自由とナポレオン：公認宗教体制の成立』(2010年)、伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学：もうひとつの19世紀フランス宗教史』(2010年)、Thomas A. Howard “Protestant Theology and the Making of the Modern German University” Oxford UP, 2006. などである。

そうした最新の西洋史研究の動向を吸収することで、比較史的な視点からロシアの宗教政策を考察することを目指した。

4. 研究成果

(1) フィラレート(ドロズドフ)の周辺を見ると、ペテルブルクに住んだ1810年代は、の知識人サークル『アルザマス』との関係が深く、そのグループ中においてフィラレートはロシア正教会の代表者と目されることもあった。

このサークル参加者たちの間には、多少の差はあるものの、西欧文化を吸収して、ロシア文学・文化の発展を目指すだけでなく、政治改革への志向もあった。このサークルには、文部官僚で、その後ニコライ一世に長く文部大臣を務めるS. ウヴァーロフ(1786-1855)、アレクサドル一世期の文部・宗教行政に関わったA. トゥルゲーネフ(1784-1845)、アレクサンドル一世期には外務省に勤め、その後内相などを務めたD. ブロドフ(1785-1864)など、後世に知られる有力なメンバーが何人もいたが、そのためかえって、デカブリスト反乱(1825年)参加者と近かったことなど、その後の歴史の展開から、彼らにとっては、当時を語るのに不都合な部分が多かったのであろう、『アルザマス』の活動は次第に忘れられてしまった。

(2) 1811年もしくは1812年に、正教会とカトリック教会との違いについての皇后からの下問に対してフィラレートが寄せた回答は、教会伝承より聖書を重視するなど、プロテスタント色が非常に濃いものであった。なお、この時、他に2名が回答を寄せているが、内容的に一致していて、いずれもフィラレートの意見をもとにした可能性が高い。

しかし、この文書は、フィラレート自身を含め、その後の関係者には不都合となったのであろう、フィラレート没後の1870年になってようやく雑誌上に紹介された。

この文書は、当時のフィラレートが、アレクサンドル一世の治下で流行したプロテスタントの宗教思想の影響を相当受けており、そのロマン主義的・普遍主義的色彩を帯びたキリスト教観、およびそれに根ざした宗教政策にかなりの程度共感を抱いていたことを示すように思われる。

(3) 19世紀初頭は、ヨーロッパにおける宗教政策の動向において大きな転換期であった。フランス革命は、カトリック教会を、旧体制の一部として否定する政策を進めた。ナポレオンはこの混乱を收拾し、ローマ教皇と協定を結んで、教会を公認するとともに、宗教監督官のもとでプロテスタント教会、ユダヤ教会とともに、その活動を統制する体制を築いた。

フランス革命とナポレオン体制の影響は、戦争によってヨーロッパ各地に波及した。ドイツで教会領が接収され、教会が自前の経済的基盤を失って、以後政府の出費で運営されるようになったのも、このことによる。プロイセンは、特にチルジットの敗戦(1806年)以降、ナポレオン体制に対抗できる国力を得られるよう、ハインリヒ・フォン・シュタイン(1757-1831)、カール・アウグスト・フォン・ハルデンベルク(1750-1822)、ウィルヘルム・フォン・フンボルト(1767-1835)らを登用して国政改革を進めた。ベルリン大学を創設(1810年)、神学教授にシュライエルマッハーを招聘するなど、自由主義的神学研究的の興隆を支え、そこからドイツ国民意識の基盤を得ようとした一方、内務省に宗務・公教育局を設け(1808年)、教会行政機関を統制した。また、人事面では、牧師の任用に大学卒業資格を必要とするなど、教会の国家統制を強化したのである。

アレクサンドル一世の宗教政策は、ナポレオンの公認宗教体制の例を意識しつつも、プロイセンの方向を目指したように思われる。すなわち、宗教・教育省を設置(1817年)し、教育制度の再編と関連させながら、正教会とカトリック教会、プロテスタント教会、ユダヤ教会を一元的に扱おうとしたのである。またこれに先立つ1813年には、聖書協会を設

立し、宗派を越えた聖書の普及と聖書のロシア語への翻訳(従来の訳は教会スラブ語)を進めた。

しかし、こうした宗教行政の再編成は、正教会にとって、これまでの国教としての地位を喪失した上、国家統制が強化されることで伝統的教会運営が脅威にさらされるように感じられ、強烈な反発を生んだのであろう。1824年に、宗教・教育省は解体され、聖書協会は活動停止となり、新しい宗教政策は挫折に終わった。

フィラレートは、聖書協会の活動に参加し、聖書のロシア語訳事業を進めるなど、アレクサンドル一世の新しい宗教政策に参画してこれを推進した面があるが、1824年の方向転換にどうコミットしたかは必ずしも明確でない。しかし、その後の態度から推察するに、国家による教会の統制には反対であり、聖書翻訳については推進の意向があっても、とりあえず事態を静観したのであろう。

また、こうした宗教行政の挫折は、その後、N. プロタソフ(1798-1855、在職1836-1855)がオーバー・プロクロールを務めた時代に強まった宗務院の「官僚化」とあいまって、宗務院を、教会運営の原則に反する国家統制の象徴とみなし、ピョートル一世時代に廃止された総主教制の復活を主張する世論が強まる背景となった、と考えられる。

宗務院の廃止と総主教制の復活が実現したのは、ロシア革命のさなか1917年8月から翌1918年9月にかけて開催された、ロシア正教の教会会議(世界大会である全地公会に対して地方公会と呼ばれる)においてである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① 兎内勇津流「データベースによる「トルキスタン集成」の構成分析」『CIAS Discussion Paper』、査読無、2013年、No. 34、pp.13-18.

② 兎内勇津流「専門図書館としての？北海道大学スラブ研究センター図書室」『専門図書館』、査読無、2010年、No. 244、pp.34-44

〔学会発表〕(計3件)

① 兎内 勇津流「ヨーロッパ史の文脈から見たアレクサンドル1世の宗教政策」「プラトンとロシア」研究会 2013年3月8日、神戸市外国語大学、神戸

② 兎内 勇津流「フィラレート(ドロズドフ)の神学的立場について」「プラトンとロシア」研究会 2012年2月28日、北海道大学、札幌

③ 兔内 勇津流「アレクサンドル1世時代の
フィラレートとその周辺」「プラトンとロシア」研究会 2011年3月1日、北海道大学、
札幌

〔図書〕(計3件)

① 菊池勇夫、田中水絵、兔内勇津流、持田誠、
石原誠(共編)『環オホーツクの環境と歴史』2
号(2012年版)、2013年、サッポロ堂書店
101p

② 兔内勇津流、石原誠(共編)『環オホーツク
の環境と歴史』1号(2011年版)、2012年、
サッポロ堂書店、87p

③ 兔内勇津流(編)『地図情報共有化に向けて
の課題』(2011年)、札幌、北海道大学スラ
ブ研究センター、61p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

兔内 勇津流 (TONAI YUZURU)

北海道大学・スラブ研究センター・准教授
研究者番号：50271672